

生理落果が終わり、果実が肥大してきています。
黒点病の防除や、極早生及び早生温州の粗摘果を行いましょう！

1 令和元年 1～5月の気象

暖地園芸研究所における本年の1～5月の気象を表1に示した。月平均気温は、1～3月までは平年よりは、高く推移したものの、3月は前年よりは1.1℃低かった。一方、4月は平年より0.8℃低く、前年より3.1℃低かった。5月は、第1～第3半旬はほぼ平年並み、第4～6半旬は平年よりやや高めに推移した。月平均気温は18.4℃で、平年より0.7℃高く、前年より0.3℃低かった。

降水量は1月及び3月で前年及び平年を大きく下回った。一方、4月は前年を大きく上回った。1月～5月の合計降水量は595mmで前年及び平年を下回った。

日照時間は922時間で2月を除き、平年を上回った。

表1 平成31年1月～令和元年5月の気象（暖地園芸研究所）

月	半旬	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1		6.6	6.0	5.8	24	90	111	206	170	193
2		7.8	6.3	6.0	89	97	21	102	152	161
3		10.7	9.2	11.8	112	186	204	180	157	200
4		13.1	13.9	16.2	214	174	69	199	172	205
	1	16.8	16.6	19.0	40	22	21	34	30	42
	2	16.9	17.3	14.9	2	26	110	40	28	18
	3	17.4	17.5	18.7	19	38	35	24	27	49
5	4	18.7	17.8	19.9	0	25	0	42	28	41
	5	19.9	18.4	18.8	69	32	36	51	29	37
	6	21.1	18.8	20.6	28	31	28	44	35	16
5月平均/合計		18.4	17.7	18.7	158	174	229	235	177	203
1～5月平均/合計		11.3	10.6	11.7	595	721	633	922	826	961

2 樹の生育

暖地園芸研究所における本年の温州ミカンの発芽期及び開花期を表2に示した。

発芽期は、「日南1号」が3月26日、「興津早生」が3月22日、「大津4号」が3月31日であり、いずれの品種も平年より13～19日、前年より6～10日早かった。

開花盛期は、「日南1号」が5月13日、「興津早生」が5月13日、「大津4号」は5月20日であり、いずれの品種も平年より1～4日、前年より12～17日遅かった。

「興津早生」の生理落果は6月上旬に終わった。

本年は表年に当たるため、いずれの品種においても着花量が多くみられた。前年は裏年であったため、本年の樹勢は比較的良好である。冬期に強い寒波もなく、寒害による著しい落葉や枯れこみはなかった。開花期以降も天候に恵まれ樹及び果実の生育は良好である。

表2 発芽期及び開花期（暖地園芸研究所）

種類	発芽期（月・日）			開花期（月・日）								
	本年	平年	前年	始期			盛期			終期		
				本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	3月26日	4月8日	4月1日	5月6日	5月4日	4月26日	5月13日	5月9日	5月1日	5月20日	5月14日	5月8日
興津早生	3月22日	4月9日	4月1日	5月6日	5月7日	4月26日	5月13日	5月12日	4月26日	5月20日	5月17日	5月1日
大津4号	3月31日	4月14日	4月6日	5月13日	5月12日	5月1日	5月20日	5月17日	5月3日	5月23日	5月22日	5月8日

注1) 平年：平成6年から30年の25年間の平均値

3 6～7月の栽培管理

(1) 夏肥の施用

早生温州（「興津早生」など）、普通温州（「大津4号」など）ともに6月上旬に遅効きしないよう即効性の化成または配合肥料を施用する。

基準量は窒素、りん酸、加里を10a当たり成分量で、以下の通りとする。

- ・早生温州はそれぞれ5kg、7kg、7kg
- ・普通温州はそれぞれ5kg、5kg、9kg

(2) 摘果

摘果は粗摘果と仕上げ摘果の2回に分けて行う。1回目の粗摘果は、早生温州では6月下旬、普通温州では7月上旬までに葉果実比10～15程度で行い、その後7月下旬～8月上旬までに葉果実比25～30程度に仕上げ摘果を済ませる。着果の少ない裏年の樹では粗摘果は控え、仕上げ摘果から行う。摘果程度の基準は、1果当り葉数で早生温州は30枚、普通温州は25枚である。

(3) 主な病気の防除

1) そうか病

そうか病は、通風不良で降雨後に乾きにくい場所や、窒素肥料が効きすぎている園で発生しやすい。通風を良くし、施肥は適切に行い樹勢を良好に管理するように努める。多発園では、発芽期（新芽が1cm程度になった時）と落弁期での薬剤防除を徹底する。

2) 黒点病

黒点病は水滴によって伝染するため、梅雨入り前に樹上の枯れ枝の除去や農薬散布を行う。葉の上で結晶を作り効果を発揮するような農薬では、散布後すぐに降雨があるような日は散布を避ける。なお、農薬の登録内容が温州ミカンと中晩柑で異なるため注意をする。

3) かいよう病

かいよう病は、発芽前～発芽期、開花前、落弁直後に防除を徹底する。多発園では、マシン油乳剤などとの近接散布に注意しつつ、幼果実期の梅雨時期や台風前の追加散布を心がける。ただし、薬害が生じる恐れがあるのでラベルを良く読んで使用する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961 ※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>